

2024年9月30日

【WANO 隔年総会 小早川新総裁あいさつ】

東京電力ホールディングス社長の小早川智明です。

この度は、WANO 会長として私を選出していただきましたこと、御礼申し上げます。また、過去 2 年間、総裁として多大な貢献と指導をしていただいたモハメド・アル・ハマディ閣下に敬意と感謝の意を表します。

私は、新総裁の最初の仕事として、2026 年に東京で開催する次回の WANO 隔年総会に皆さんをご招待したいと思います。

WANO 隔年総会は、世界中のリーダーの方々と有益な情報交換やネットワーキングができる貴重な機会であり、2030 年の Action for Excellence の目標達成に向けて、各社の取組みを学べる機会ともなっております。

私は、是非この機会に、福島第一原子力発電所の事故から 13 年が経過し、これまでに得られた教訓を皆さんと共有することで、世界中のプラントの安全性向上に寄与することを、強く望んでいます。

事故当時を振り返ると、様々な情報が飛び交う中で、WANO から一貫した正確な情報を世界の皆様にお伝え頂きました。これにより、業界が一枚岩となって当社をサポートしていただくきっかけとなり、福島第一原子力発電所の廃止措置に従事する社員や関係者にとっては、本当に励みになりました。

また、その後も WANO には、「福島第一」の事故の教訓を、SOER として皆さんの発電所に反映して頂くことで、安全性の向上に貢献頂きました。

「福島第一」は、今では国内外の多くの関係者のご尽力もあり、計画的に廃炉作業を進めることができる環境が整いつつあります。

2023年8月には、廃炉を進める上で避けることができない、ALPS 処理水の海洋放出を開始することができました。また、今年9月には、燃料デブリの取り出しに着手したところです。

2026年のBGMでは「福島第一」の視察ツアーを企画しておりますので、皆さんにお越し頂いた際には、是非、福島の復興状況や、廃止措置の状況を視察して頂くことを望んでいます。

我々、東京電力の最大の使命は、「福島への責任を貫徹」することです。東京電力は最後まで、「福島第一」の廃炉作業に責任を持って取り組んでおります。

WANO や IAEA の皆様をはじめ、多くの方々には、これまでも多大な支援をいただき、本当に感謝に堪えません。

私が、WANO へ貢献できることがあれば、今後も積極的に協力してまいります。

我々日本の原子力事業者は、2030年のAction for Excellenceの目標達成に向けて、世界の事業者の皆様をしっかりとサポートするために一丸となって取り組んでまいります。

2026年に東京でお会いできることを心から楽しみにしております。

以上